

鎌ヶ谷市施策評価表(事後)

施策の名称	232防犯対策の促進		
施策のねらい(めざす姿)	市民が、犯罪のない明るい地域社会で安心して暮らしています。		
基本目標	2「自然と社会が調和する環境共生都市」をめざして	施策担当マネージャー	市民生活部次長
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	マネージャー氏名	青木 真也

I 改革・改善内容(=施策をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	自主防犯パトロール隊員が、高齢化などにより減少しているため、増加させる方策を検討しなければならない。	③改革・改善内容	<ul style="list-style-type: none"> 市民が参加する各種イベントの中で隊員募集啓発を行うとともに、大学生ボランティアなどの若年層に対する啓発手法を検討する必要がある。 防犯灯管理・LED化推進事業において、現況調査、防犯灯管理団体から市への移管手続きを行う。
②①に基づく取り組み結果	各地域で実施している防犯キャンペーンや警察・防犯協会と連携して行っている防犯サテライト事業の中で、募集チラシや啓発物資などを配布するとともに、市ホームページに募集チラシを掲出するなどの募集啓発を行った。		

II 施策の目的・概要

①目的	対象	市民・自治会	意図(対象をどうするのか)	自治会などと協力し、防犯灯の維持管理や防犯パトロールを実施するとともに、防犯協会の支援などを通して、安全で安心なまちづくりを進める。
②施策の概要	<p>○防犯灯管理・LED化推進事業:防犯灯管理団体が管理していた防犯灯について、LED灯に切り替えるとともに、市による一括管理を行う。</p> <p>○防犯協会補助事業:防犯協会が実施する事業に対し補助を行う。</p>			
③環境分析(状況変化や今後の見込み・市民意向など)	<p>警視庁の「平成30年度版警察白書」では、刑法犯認知件数は、平成29年度中は約91万5,000件と、前年より8万件以上減少しており、ピーク時の平成14年と比べ約194万件減少している。また、平成29年9月に実施した「治安に関する特別世論調査」では、日本経済の治安に関する認識では「新しい手口の犯罪の出現」「地域社会の連帯意識が希薄化」「様々な情報が氾濫し、容易に手に入る状況」が上位を占めており、鎌ヶ谷市においても、全国調査結果と同様の傾向となっている。また、市民意識調査では、「犯罪・風紀など防犯対策」「交通事故防止のための安全対策」に対する重要度も満足度も高くなっていることから、現在の取組みを継続していく必要がある。今後、防犯灯管理・LED化推進事業の実施に加え、新手法の詐欺犯罪に対応するため、引き続き警察・防犯協会と連携し、電話de詐欺などへの対策が求められている。</p>			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成29～30年度の施策の成果	防犯施策の推進により、市内の刑法犯認知件数は、過去5年では減少傾向となっている。						
②施策成果指標	指標名称		単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	目標値(2年度)
	i	刑法犯認知件数	件	970	759	827	1,300
	ii	防犯パトロール隊団体数	団体	44	44	42	40
	iii						
③基本事業成果指標	i	防犯灯設置灯数(補助灯数)	基	8,055	8,124	8,181	8,250
	ii	防犯パトロール隊参加者数	人	1,387	1,297	1,318	1,624
	iii	防犯サテライト事業参加者数	人	1,087	961	934	360
	iv	防犯パトロール隊団体数	団体	44	44	42	40
	v						
	vi						
	vii						
	viii						
	ix						
④施策の事業費	平成29年度決算	平成30年度決算	市民一人あたり事業費(30年度決算)		令和元年度予算		
事業費(千円)	88,445	92,565	(単位:円) 846円		91,762		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	防犯灯管理LED化推進事業の円滑に実施していくとともに、防犯パトロール隊員の減少、電話de詐欺対策については、引き続きその手法等を検討する必要がある。		
②総合評価	2概ね達成	③総合評価の理由	防犯灯設置灯数など一部未達成のものはあるものの、刑法犯認知件数は減少傾向で、かつ防犯パトロール団体数についても目標を達成していることから左記評価とした。

V 今後の方向性

①施策の方向性	→維持
②上記方向性の説明	引き続き、防犯対策を強化する上で、市民や自治会等の防犯活動、防犯協会の事業等を積極的に支援していく必要がある。
③特に重点化する事務事業	防犯対策に要する経費